

# 第38回

## 日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会

### 抄録集

2020

11/21

(土)



会 場：福井県済生会病院 ZOOMによるWEB開催

当番会長：中山 俊(福井県済生会病院 腫瘍内科部長)

第 38 回  
日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会

ZOOM 招待リンク:URL

<https://us02web.zoom.us/j/8389240304?pwd=bzA4L1JPK3FWMEM3U0dhN1NVZTdhZzC>



E-mail にてお知らせ

ミーティング ID

838 9240 3042

パスコード(パスワード)

〇〇〇〇〇〇: E-mail にてお知らせ

# 第 38 回日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会

当番会長 中山 俊  
(福井県済生会病院 腫瘍内科部長)

I. 日 程：令和2年11月 21 日(土)午後1時より

II. 会 場：福井県済生会病院 東館3F大研修室  
ZOOMによる WEB 開催

III. プログラム：

## 1. シンポジウム

「新型コロナウイルスと輸血」

－医師の立場から－

－臨床検査技師の立場から－

\* 富山県：富山大学附属病院

\* 石川県：石川県立中央病院

：国立病院機構 金沢医療センター

\* 福井県：福井赤十字病院

\* 福井県赤十字血液センター

## 2. 特別講演

### ①「輸血感染症の現状と対策」

講師：日本赤十字社中央血液研究所

感染症解析部長 松林 圭二 先生

### ②「福井県における新型コロナウイルス感染症を振り返る」

講師：福井大学医学部附属病院 感染制御部

感染症/膠原病内科 教授 岩崎 博道 先生

当番会長 中山 俊 (福井県済生会病院 腫瘍内科科部長)  
事務局 福井県済生会病院 検査部輸血部門

〒918-8503 福井県福井市和田中町舟橋 7-1

Tell： 0776-23-1111 (内線 2297)

Email： yuketsu-hokuriku38@fukui.saiseikai.or.jp

## 第 38 回日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会

新型コロナウイルス感染拡大防止を図るために、ZOOM を用いた WEB 開催となりました。

### ■ ZOOM オンライン開催—参加、にあたってのお願い

- \*ZOOM については、できる限りご自身(または周辺)で使い方や操作などについて、準備ならびにご確認ください。
- \*ZOOM を初めて使用される場合は、ZOOM のアプリケーションをインストール下さい。
- \*ZOOM をインストールされない場合は、後日支部例会事務局から E-mail にて学会招待リンク(URL)を送信しますので、URL をクリックすることで、ZOOM 学会にご参加頂けます。
- \*ご自宅のパソコンにてご聴講される方は、ご自宅の E-mail へ招待リンク(URL)を転送して下さい。
- \*スマホ・タブレットにてご聴講される方は、ZOOM cloud meeting を事前にダウンロードしておく必要があります。
- \*事前に ZOOM 接続のテストを行いたい方は、事務局までご連絡下さい。

### ■ ZOOM 学会開催(当日)

- \*ZOOM 学会へご参加頂くための ID・パスワードは事前参加登録のご記入いただきましたメールアドレスへ送付しております。
  - \*ZOOM 学会参加時、**マイクはオフ**にして、カメラはオン・オフ自由でご参加ください。
  - \*司会者(ホスト)が、強制的にミュートやカメラオフを行うことがあります。演者や質疑応答の妨げにならないように、ご協力ください。
  - \*質問は、ZOOM の手挙げ機能を使って、参加者に直接発言いただく方法で行います。また、聴講中[チャット]にて、質問内容をご入力頂くことも可能です。司会者・座長が指名後、マイク、カメラを ON にしてご発言下さい。
  - \*講演者・シンポジスト・座長の方には、司会者(ホスト)から、共同ホストの役割を付与させていただきます。
  - \*発表者は、ZOOM の画面共有機能により画面を共有しつつ、発表を行って頂きます。
- ★初めてのオンライン開催となりますので、講演者、ご聴講者、司会の先生方には、ご負担をお掛け致しますが、ご協力・ご理解を承りますようお願い申し上げます。

当番会長：中山 俊

## ■ ZOOMでの参加・発表 当日のご案内

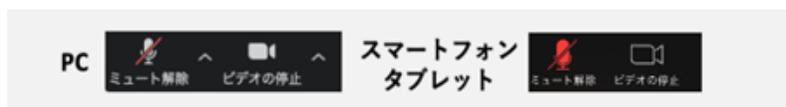
### ミーティング画面の下部メニューの説明



- \*【ミュート】 : クリックするとマイク ON・OFF
- \*【ビデオの停止】 : クリックするとビデオカメラ ON・OFF
- \*【参加者】 : クリックすると参加者の情報がでる
  - ・名前の変更を行う
  - ・質問時での「手を挙げる」機能を使用
- \*【チャット】 : クリックし、質問内容を入力する
- \*【ミーティングを退出】 : クリックし、例会(ミーティング)から退出する

### 《お願い》学会入室時での設定

- (1) **マイクをオフ**にして下さい。  
カメラは、オン・オフ自由でご参加下さい。



- (2) 名前の設定をして下さい。  
[参加番号 氏名-所属施設]の情報を含んだ名前に設定して下さい。  
例)DR101-中山俊・済生会 HP

1. 「参加者」をクリックする
2. 参加者一覧から自分の名前にマウスを近づけ、「詳細」をクリックし、「**名前の変更**」を選択する。
3. スマートフォン・タブレットの場合は、「参加者」から自分の名前をタップし、「名前の変更」を選ぶ。

●「名前の設定」



≪お願い≫発表・質疑応答時での設定

(1)発表する時は、マイクとカメラを ON にして下さい。



(2)質疑応答時での質問は「手を挙げる」機能を使います。  
 聴講中[チャット]にて、質問内容をご入力頂くことも可能です。

- ◇ 司会(座長)から指名を受けた方が発言して下さい。
- ◇ 発言時は、マイクとカメラを ON にして下さい。
- ◇ 終了後は、再度マイクを OFF(ミュート)にして下さい。



## ■ 事前参加申し込みから当日参加の流れ

### ①事前参加登録

事務局へ E-mail にて お申し込み下さい。

E-mail : [yuketsu-hokuriku38@fukui.saiseikai.or.jp](mailto:yuketsu-hokuriku38@fukui.saiseikai.or.jp)

第 38 回日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会 参加申し込み	
ご施設 / 所属	
ご施設住所	㊦
お名前	
職種	
E-mail	
臨床検査技師の方へ 日臨技会員番号	

②事務局から、支部例会参加番号を Mail で返信します。

③参加費 500 円をお振込み下さい。

④納金確認後、事務局より、E-mail にて以下の内容をご返信いたします。

第 38 回日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会 参加登録	
ZOOM 招待リンク: URL	ZOOM をインストールされていない方は、このリンクをクリックすることで、ZOOM 学会に、ご参加いただけます。 *スマホ、タブレットの方は、ZOOM cloud meeting を事前にダウンロードしておく必要があります。
ZOOM 学会(ミーティング)ID	ZOOM をインストールされている方は、こちらからもご参加いただけます。
ZOOM パスワード	

⑤例会前日までに、参加お申込み者へ以下の内容を郵送します。

- ① 抄録集(ZOOM の簡単な利用方法を挿入)
- ② 参加証(兼領収書)

\*事前に ZOOM 接続のテストを行いたい方は、事務局までご連絡下さい。

2020 年度:新支部長  
日本輸血・細胞治療学会北陸支部長

山崎 宏人 先生

金沢大学附属病院 病院臨床教授／輸血部長

【 タイムスケジュール 】

支部例会\_各種委員会

10:00～10:25 支部理事会(旧幹事会)

ZOOM ミーティング ID  
パスコード(パスワード)

10:30～ 11:10 I&A 委員会

ZOOM ミーティング ID  
パスコード(パスワード)

11:15 ～12:10 代議員会(旧評議員会)

ZOOM ミーティング ID  
パスコード(パスワード)

## 【 タイムスケジュール 】

12:30～13:00 ZOOM 学会 入室

13:00～13:10 開 会 の 辞

挨拶 例会長 中山 俊 (福井県済生会病院)  
挨拶 支部長 山崎 宏人 (金沢大学附属病院 輸血部)

13:10～14:25 シンポジウム

- \* 富山県: 富山大学附属病院
- \* 石川県: 石川県立中央病院  
: 国立病院機構 金沢医療センター
- \* 福井県: 福井赤十字病院
- \* 福井県赤十字血液センター

総合討論

14:30～14:45 総 会

14:50～15:40 特別講演①

15:40～16:30 特別講演②

16:30 閉 会 の 辞

※日本臨床衛生検査技師会生涯教育履修点数について

本会は、石川県臨床検査技師会、富山県臨床検査技師会、福井県臨床検査技師会の共催を受けており、専門教科点数20点が認められます。

## 【 プログラム 】

### ≪ シンポジウム ≫

#### 「新型コロナウイルスと輸血」

—医師の立場から—

—臨床検査技師の立場から—

司会 福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 松田 安史 先生  
福井県立病院 検査室 押野 寛美 技師

SY-1 「富山県」 —医師の立場から—

富山県の輸血医療に対する新型コロナウイルス(COVID-19)流行の影響

富山大学附属病院 血液内科/検査・輸血細胞治療部 村上 純 先生

SY-2 「富山県」 —臨床検査技師の立場から—

富山県の輸血医療に対する新型コロナウイルス(COVID-19)流行の影響

富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部 富山 隆介 技師

SY-3 「石川県」 —医師の立場から—

COVID-19 と輸血

石川県立中央病院 血液内科 杉盛 千春 先生

SY-4 「石川県」 —臨床検査技師の立場から—

いち臨床検査技師としてコロナ禍で経験したこと

国立病院機構金沢医療センター 臨床検査科 谷口 容 技師

SY-5 「福井県」 —医師の立場から—

当院における新型コロナウイルス感染患者に対する輸血関連業務への対応

福井赤十字病院 内科 今村 信 先生

SY-6 「福井県」 —臨床検査技師の立場から—

当院における新型コロナウイルス感染患者に対する輸血関連業務への対応

福井赤十字病院 検査部 渡辺 純也 技師

SY-7 「赤十字血液センター」

コロナ禍での福井県における献血推進の状況について

福井県赤十字血液センター 牧田 昭 先生

◀ 特別講演 ▶

司会 中山 俊

福井県済生会病院 腫瘍内科部長

❶「輸血感染症の現状と対策」

講師：日本赤十字社中央血液研究所

感染症解析部長 松林 圭二 先生

❷「福井県における新型コロナウイルス感染症を振り返る」

講師：福井大学医学部附属病院感染制御部

感染症/膠原病内科 教授 岩崎 博道 先生

SY-1, SY-2

## 富山県の輸血医療に対する新型コロナウイルス(COVID-19)流行の影響

～医師の立場から～

村上 純

～臨床検査技師の立場から～

富山 隆介

富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部<sup>1)</sup> 血液内科<sup>2)</sup>

村上 純<sup>1,2)</sup>, 富山 隆介<sup>1)</sup>, 雨野 里奈子<sup>1)</sup>, 大槻 晋也<sup>1)</sup>, 佐竹 伊津子<sup>1)</sup>, 道野 淳子<sup>1)</sup>,

山本 由加里<sup>1)</sup>, 和田 暁法<sup>2)</sup>, 仁井見 英樹<sup>1)</sup>

目的:2020年初頭の新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的流行による富山県の輸血医療に対する影響を検討した。

方法:富山県内の感染症指定病院や輸血療法委員会に参加した主要病院を対象に、2020年前半のCOVID-19流行時期における血液製剤の使用状況を調査し、昨年における使用件数と比較した。また重症COVID-19症例に対する輸血の使用状況についても調査した。

結果:2020年2月から7月までの富山県内の8施設における血液製剤全体の使用量は、4月には昨年の75%に減少した。赤血球製剤は93%に、新鮮凍結血漿は48%に、血小板製剤は68%に減少したが、5月以降はいずれも例年の90%以上に回復した。当院における自己血輸血の件数も4月は少なかったが、例年に比べて同様であった。集中治療を要する重症例に対しては赤血球、血漿、アルブミン製剤が多く使用されたが、病院毎の患者数は少数で、病院または地域全体の供給に大きな影響は見られなかった。

考察:今回のパンデミック第1波に際して、献血による輸血の供給が減少したにもかかわらず、適切なタイミングで診療の縮小など需要の調整が行われたため、輸血医療への影響は最小にとどまったと考えられる。今後重症患者が増えた場合など、感染症指定病院や他の病院に対する輸血供給を確保する対策が必要である。

## SY-3 COVID-19 と輸血

～医師の立場から～

石川県立中央病院

血液内科 杉盛 千春

COVID-19 (coronavirus disease 2019) は, SARS-CoV-2 (severe acute respiratory syndrome coronavirus 2) 感染により惹起された IL-6 を中心としたサイトカインストーム・肺胞障害・血管内皮障害・血液凝固異常・免疫不全を本態とし, 慢性的な呼吸器疾患, 心疾患, 腎疾患, 内分泌疾患などが背景にある場合, 時に死に至ることが知られている。

当院においては, 2020 年 3 月～9 月までに 109 名が入院された。治療に際して, 播種性血管内凝固 (disseminated intravascular coagulation, DIC) による血小板減少・凝固因子欠乏や抗凝固療法の合併症としての出血から多くの輸血を要することが懸念されたが, 実際に輸血を要したのは下表の 8 例であった。

COVID-19 においては, DIC の診断基準を満たすほど FDP や D-dimer 値が上昇している症例でも意外と血小板輸血は必要とせず, 抗凝固療法の合併症としての出血も限定的であった。しかし, 人工呼吸管理を要するような重症例, 特に体外式膜型人工肺 (extracorporeal membrane oxygenation, ECMO) を使用した症例においては, 極めて高度の凝固因子欠乏を呈し, 血流動態維持の観点からも非常に多くの輸血を要した。これらの ECMO 症例については, COVID-19 症例 vs 非 COVID-19 症例での検討を要するものと思われた。

UPN	性別	年齢	重症度	RBC	PC	FFP	関連事象	在院日数	転帰
1	M	73	重	32	105	90	ECMO	35	死
23	M	59	重	38	20	46	ECMO	37	生
34	M	65	重	20	0	124	人工呼吸器/HD/PE	46	生
41	M	83	中	2	0	0	F 病院 (認知症)	1	死
45	F	90	中	8	0	0	F 病院 (認知症)	5	死
53	F	65	重	4	0	0	人工呼吸器	43	死
91	F	67	軽	2	0	0	慢性腎不全	21	生
107	M	94	中	6	0	8	打撲→血腫	31	生

## SY-4 いち臨床検査技師としてコロナ禍で経験したこと

～臨床検査技師の立場から～

国立病院機構金沢医療センター

臨床検査科 谷口 容

### 感染対策

患者さんと直接関わる検査室では、随分と様変わりした。生理機能検査室では、ゴーグルやビニールエプロンの着用、ディスポシーツの使用、消毒や換気の徹底、肺機能検査室の陰圧工事、問診票確認の徹底など…、採血室では飛沫感染対策としてビニールカーテンやアクリル板が設置された。

私たちが業務上、注意すべき感染症は COVID-19 だけではない。基本的にはスタンダードプリコーションで良いと思われるが、拭い液や血液検体から感染するのか十分なエビデンスがなく、陽性(もしくは疑い)患者の検体となるとつい身構えてしまう。

当院では、感染症病棟や救急陰圧室の検体は、ビニール袋で二重に包まれ提出される。検体検査受付時に、ラベルに赤マジックで線を引き、陽性検体とわかるようにしている。自動機器から取り出した後、直ちに閉栓するためである。さらに、呼吸器感染症の迅速検査(POCT)や遺伝子検査等に提出される、鼻咽頭拭い液、唾液検体の検査前処理は、全て安全キャビネット内で処理をしている。

輸血検査室に限っていえば、対応の変化は少ない。それでも、用手法検査での対応、自動血球洗浄器の使用、使用後の血液製剤バッグや伝票の回収はどうするか等、今後の対応を考える機会となれば幸いである。

### ウイルス検査

SARS-CoV-2 検査について、LAMP 法(栄研化学)を皮切りに、抗体検査(アボット)、抗原簡易検査キット(富士レビオ)、Smart Gene PCR(ミズホメディター)と様々な種類を導入し、24 時間対応している。当院での運用についてご紹介させていただきたい。

### 安全な血液製剤の安定供給

COVID-19 自体は、血栓症を引き起こす疾患であり、輸血療法を必要とする例は多くない。

各施設の感染症対応体制にもよるが、予定手術が延期され赤血球製剤の使用量は減少、血液内科の血小板製剤供給には変化がなかったことが予想される。

パンデミック発生時の安全な血液製剤の安定供給について、来たるべき第三波を前に振り返っておきたい。

## 当院における新型コロナウイルス感染患者に対する輸血関連業務への対応

～医師の立場から～

内科 今村 信

～臨床検査技師の立場から～

検査部 渡辺 純也

<sup>1)</sup>福井赤十字病院 内科, <sup>2)</sup>福井赤十字病院 検査部

今村 信<sup>1)</sup>, 渡辺 純也<sup>2)</sup>杉本 正雄<sup>2)</sup>富田 文代<sup>2)</sup>岩田 美智子<sup>2)</sup>松宮 翔太<sup>2)</sup>

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は新型コロナウイルス(SARS-COV-2)によって引き起こされる疾患であり、2020年3月11日にはパンデミックの状態にあると表明され現在においても世界各国で猛威を振っている。

当院においては10月14日までに57名の患者を受け入れており、その内2名の患者に対して輸血が行われた。医療従事者は患者や患者から得られる検査材料によって感染する事のない様注意を払わなければならないが、血液については輸血を含め現時点において感染経路として支持するエビデンスはない。新型コロナウイルスの感染経路については飛沫感染や飛沫によって汚染された表面からの接触感染が主体と考えられ、エアロゾル感染については現在の流行における主な感染経路とは評価されていないものの、医療機関においてエアロゾルを発生する処置が行われる場合には呼吸器防御策を講じるとされており、検査のほとんどの作業(検体容器の蓋の開閉、遠心検体の分注、検体の激しい振盪や混和、容器の内圧が外気圧と異なる際の開封等)でエアロゾルの発生を回避する事が困難とされている事をふまえると、新型コロナウイルス感染患者の血液検体を扱う際には、従来通り血液の直接暴露に注意が必要な事は元よりエアロゾルの発生についても考慮し、適切な个人防护具の使用や対応策を予め講じておく必要があると考える。本発表では当検査室における新型コロナウイルス感染患者(疑いを含む)の輸血検査及び輸血への対応について報告すると共に、入院中複数回の輸血により不規則抗体の産生を認めた症例を含め、輸血を必要とした症例の臨床経過についても報告する。

## SY-7 コロナ禍での福井県における献血推進の状況について

福井県赤十字血液センター

献血推進課 牧田 昭

我々、赤十字血液センターの職員は、「基本理念」に則って、全国を7つのブロックに分けて広域的な事業運営に当たっています。福井県は、東海北陸ブロックセンターに属していて、ブロックを中心に各地域センターにおいての医療機関からの情報収集を基に輸血用血液の必要量を積算して、供給計画を策定し、それに必要な献血量をブロック内の7県で役割分担として採血計画の策定を国・県の承認を受け行っています。

今般のCOVID-19感染拡大により、血液事業に多大な影響がありました。

今回、日本赤十字社血液事業本部の対策を紹介しながら、感染を2期に分けて、福井県における対策を週単位で検証し、輸血用血液の需給状況について報告します。

### ○感染拡大期(3/15～5/2)

- ・献血者減少の報道を受け、献血ホールいぶきの献血協力が一時的に増加した。
- ・献血バスについては、COVID-19拡大の影響で献血受入の企業からの協力見合わせが急増したことにより、振替献血会場の確保できず、計画割れとなった。
- ・不要不急の外出が禁止となり、ショッピングセンターでの献血計画の中止や計画割れが続いた。
- ・官公庁・企業・学校関係においてテレワークが導入され、職員の減少により計画割れとなった。

### ○感染第2波(7/12～9/5)

- ・献血ホールいぶきにおける献血者減少の報道による一時的な増加は、落ち着き、計画どおりとなった。
- ・献血バスの計画については、企業からの協力が依然、厳しい状況となっているが、ショッピングセンターにおいて献血協力団体の協力が戻りつつある。
- ・官公庁での献血実施が頻回となったため、採血基準(採血間隔・年間総量)により、今後、献血協力の減少が想定される。
- ・学域献血の実施について困難な状況が継続している。

### ○まとめ

今後の感染状況について見通すことは難しいが、輸血を必要とする患者様のために感染予防を考慮しながらコロナ禍での「新しい生活様式」に基づく献血を推進して行きたい。

## ≪ 特別講演 ① ≫ 輸血感染症の現状と対策

日本赤十字社中央血液研究所  
感染症解析部 松林 圭二

国内では HBV、HCV、HIV、HTLV-1、ヒトパルボウイルス B19(PVB19)、HAV、HEV、CMV 等のウイルス、各種細菌、マラリアやバベシア等の原虫が輸血を介して感染する病原体として知られている。

これまで HBV、HCV、HIV による輸血感染症が大きな社会問題となっていたが、高感度の血清学的検査や核酸増幅検査(NAT)の導入をはじめとする種々の安全対策により、その発生件数は大幅に減少した。HCV と HIV については 2014 年に個別 NAT を導入して以降、輸血感染事例は確認されていない。また、HBV についても 2012 年に HBc 抗体検査の判定基準を強化して以降、HBV 既往感染者の血液による輸血感染は確認されていない。2015 年から 2019 年の間に確認された輸血感染事例は、HBV 3 例、HEV 22 例、PVB19 3 例、HGV 1 例、細菌 12 例である。HBV の輸血感染事例はいずれも HBV に新規感染した献血者のウインドウ期の血液、すなわち個別 NAT でも検出できない極微量のウイルスを含む製剤が原因であった。このため、問診の強化等により、リスク行為をした方に対して献血辞退を促すことが必要である。HEV については、2020 年 8 月から個別 NAT が全国導入されたため、輸血感染はほぼ撲滅できると期待されている。細菌感染事例の原因製剤はすべて血小板製剤である。日赤では血小板製剤の有効期限を諸外国に比べ短く設定し、初流血除去、保存前白血球除去を実施しているが、さらなる安全対策の導入に取り組んでいる。

2019 年末に突如として現れ、瞬く間に世界中に感染が拡大した SARS-CoV-2 によって、人類は未曾有の危機に直面している。このウイルスが輸血感染するかどうかについては、世界中の医療従事者や血液事業者が注視しているところである。COVID-19 患者の 15～40%の血清に微量の RNA ゲノムが検出されたとの報告はあるが、現在までに輸血感染事例は確認されておらず、輸血感染のリスクは極めて小さいと考えられている。日赤では問診を徹底するとともに、献血後に SARS-CoV-2 感染症に関する情報を入手した場合には、血液製剤の回収や医療機関への情報提供が適切に行えるよう体制を整えている。

## ◀ 特別講演 ② ▶ 福井県における新型コロナウイルス感染症を振り返る

福井大学医学部附属病院  
感染制御部 感染症/膠原病内科 岩崎 博道

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は 100 年に 1 度の感染症パンデミックともいわれ、様々な分野に多大な影響を及ぼした。輸血領域でも血液製剤を介する感染について懸念されたが、未だ輸血による感染が疑われた事例はない。同じコロナウイルス感染症である SARS や MERS、または H1N1 インフルエンザを含む呼吸器感染の原因となるウイルスが輸血により感染が伝播した例の報告もない。

COVID-19 は感染拡大の初期にクラスターを形成するのが特徴であることや、80%が軽症または無症候性として経過し、80%の感染者は他人に感染させないことが厚労省・専門家会議から報告された。2020 年 4 月初旬、福井県は人口 10 万人当たりの患者数(6.7 人)が全国 1 位となり、東京と共に感染爆発の危機にあることが連日報道された。臨床現場でも医療崩壊を危惧したが、県医師会による“医療提供体制緊急事態宣言”の発令を機に県内医療機関が連携を取り状況は好転し、一歩手前のところで崩壊を回避できた。いわゆる第 1 波としての“夜の街クラスター”に端を発したものであった。さらに、その後 8 月にも第 2 波として“カラオケクラスター”を経験した。

COVID-19 の感染対策は、飛沫感染対策と接触感染対策を怠らない事に尽きる。この事が県公報やマスコミ等を通して、県民(医療者)に伝えられた。福井県では施設内感染は、大きな問題にはならなかった。医療者に感染者が出た事例もあるが、自らが感染していても他人には感染させない感染対策(マスク着用と手指衛生の徹底)が浸透していたため院内クラスター形成には至らなかったと考える。福井県の COVID-19 は第 1 波、第 2 波を通して総数 244 名の患者発生を認め、11 名の方が死亡する惨事となった。しかし、この度の経験は、これからも感染発生が予想される COVID-19 に対する医療界の大きな財産となったことは間違いない。

【 MEMO 】

本学会にご協賛頂きました下記の会社に厚く御礼申し上げます。

第 38 回日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会事務局

広告協賛会社(五十音順)

アステラス製薬株式会社

株式会社イムコア

MSD 株式会社

大塚製薬株式会社

小野薬品工業株式会社

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

協和キリン株式会社

サノフィ株式会社

大日本住友製薬株式会社

中外製薬株式会社

日本新薬株式会社

ノバルティスファーマ株式会社

ファイザー株式会社

ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

Transfuse



Transplant

Transform a **life**

私たちイムコアは、輸血・移植検査に携わる皆様の確かな検査業務のために、信頼し安心できる最適な検査試薬と検査システムの提供に誠実に取り組んでいます。

全自動輸血検査装置

**ECHO Lumena™**

**Brilliant Performance.**

**Clear Results.**

Seeing beyond limits

ECHO Lumenaは、イムコアの次世代の全自動輸血検査装置です。搭載された最新のカメラリーダーやソフトウェアの機能は、データの信頼性を高め、更に安全な輸血検査を提供します。よりパワフルになったEfficiency（業務効率）、Accuracy（検査結果の信頼性）、Flexibility（フレキシビリティ）をぜひご体験ください。



- 臨床的に意義のあるIgG不規則抗体の確かな検出のためのキャプチャー法を採用
- 検体及び試薬ラック装填／洗浄液の補充／廃液の廃棄に、動作中でも連続的にアクセスが可能
- ユーザーフレンドリーなスタートアップ／メンテナンス手順
- コンパクトなベンチトップ輸血検査装置

医療機器届出番号

全自動輸血検査装置 ECHO Lumena : 13B3X10033000001

**IMMUCOR.**

株式会社イムコア

東京都港区東新橋2-4-6 パラッツオシエナ 5F  
TEL 0120-16-4521

# INVENTING FOR LIFE

人々の生命を救い  
人生を健やかにするために、挑みつづける。

最先端の医薬品の創造。それは長く険しい道のりです。  
懸命な研究開発の99%以上は実を結ばない現実。  
でも、決してあきらめない。  
あなたや、あなたの大切な人の「いのち」のために、  
革新的な新薬とワクチンの発見、開発、提供を  
私たちは続けていきます。



# Ortho Clinical Diagnostics

Transfusion medicine has evolved  
in order to enhance safety and  
establish critical efficiencies

すべての患者様に安心していただくために、  
皆様が安全な輸血検査を行うために、  
私たちオーソは皆様の業務を理解し、サポートしていきます。

「安全」と「信頼」をお届けするため  
私たちはこれからも歩み続けていきます。

Analyzer  
ORTHO**VISION**<sup>®</sup>



全自動輸血検査システム オーソ ビジョン<sup>®</sup> 届出番号 13B3X10182000013

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

お客様サポートセンター Tel.0120-03-6527

URL [www.OrthoClinicalDiagnostics.com](http://www.OrthoClinicalDiagnostics.com)

©Ortho Clinical Diagnostics 2016-2020 13-1D9

オノ オンコロジー

**ONCOLOGY**<sup>®</sup>

for Professional

がんと向き合う患者さん、  
医療関係者の皆様を支えるために。  
小野薬品は本気で取り組みます。

<https://www.ono-oncology.jp/>



オンコロジーに関する最新ニュース、文献情報、学会情報をお届けいたします。

**ONO** 小野薬品工業株式会社

# たった一度のいのちと歩く。

## 私たちの志

ここにいる責任と幸福。

私たちの朝には、いつもかけがえのないいのちがある。夜眠られて生まれ、いつくしむの中で育ち、輝きに胸を打たれ、しあわせになることを願って生きるいのち。まず、私たちは、この地球上でもっとも大切なものを大切にしたい。そして、いのちの尊厳に寄り添うこと。

そのため、私たち製薬会社には、常に「いのち」を大切にすることが求められる。自分たちを信じよう、自分たちの力を、自分たちの責任を背負おう。私たちは、決して大きな会社ではない。でも、どこにもない歴史があり、どこにもマネできない。だからこそ、自分たちの責任を背負おう。そして、どこにもない優秀な人材がいる。困難をおそれない勇気を持つよう。所感を吐き出し、意見を述べよう。その真意は、現状に満足する者には永久に受け取れない。私たちが、人々がどれほど生きることを選んでいっているか。私たちが、人間に与えられた感受性をサビつかないよう。世界を救うのは薬だけでは足りない。人間性、人間らしさが必要である。

最高のチームになろう。どんな困難も乗り越えよう。力をあわせた人間というものは、ひとりではありえない。スピードをあげよう。いまここから、どこへも、病とけん闘しよう。私たちは、その闘いがどんなに苦しいかを知っている。急ごう。走ってはいけないうち。そして、どんな時も誠実でありたい。私たちは薬をつくらせている。人のいのちを救うこと、心をつなぐこと、世界に示したいと思う。

仕事は、人をしあわせにできる。いつも、私たちはそのことを忘れないでいよう。私たちは、さまざまな場所で生まれ、さまざまな時間を経て、さながら奇蹟のように、この仕事、この会社、この仲間に出会った。そのことを心からよることばう。そして、いまここにいる自分に感謝し、その使命に心血をそそぎ、かけがえのないいのちのために働くことを、誇りとしよう。人間の情熱を、人間のために使うしあわせ。私たちは、ひとりひとりが協和キリンです。

たった一度の、いのちと歩く。



私たちの志      検索



がんではない。  
ひとりを見つめるのだ。

私は何と闘っているのだろう  
がん細胞？  
いや 向き合うべき相手は  
ひとりの人間ではないのか  
ひとつとして同じ遺伝子はない  
つまり 同じ答えはない

一人ひとりの遺伝子変異に基づく  
がん医療に貢献しています。

創造で、想像を超える。

すべての革新は患者さんのために



CHUGAI

中外製薬



ロシュグループ

# NO BORDER

いままでの常識を超えて。

国境や人種や時間を超えて。

そして、じぶんの限界を超えて。

世界のあらゆるメディカルニーズに応え、

患者さんやご家族の未来を輝かせたい。

私たちは今日も、新薬開発に挑んでいます。

すべてを超えて  
くすりの未来へ

健康未来、創ります  
 **日本新薬**



ヒト型抗CD38モノクローナル抗体

薬価基準収載



# ダラザレックス<sup>®</sup>点滴静注

100mg・400mg

DARZALEX<sup>®</sup> Intravenous Infusion

ダラツマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品\*

\*注意一医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元(文献請求先・製品情報お問合せ先)

ヤンセンファーマ株式会社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2

[www.janssen.com/japan](http://www.janssen.com/japan)

[www.janssenpro.jp](http://www.janssenpro.jp) (医薬品情報)

まだないくすりを  
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。

 **astellas**

アステラス製薬株式会社

[www.astellas.com/jp/](http://www.astellas.com/jp/)

  
**ICLUSIG®**  
(ponatinib) tablets



抗悪性腫瘍剤／チロシンキナーゼインヒビター

薬価基準収載

**アイクルシグ®錠 15<sup>mg</sup>**

ICLUSIG® tablets 15<sup>mg</sup>

ポナチニブ塩酸塩錠

劇薬 処方箋医薬品

注意－医師等の処方箋により使用すること

●効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

  
Otsuka

<製造販売元>

大塚製薬株式会社  
東京都千代田区神田司町2-9

<資料請求先>

大塚製薬株式会社 医薬情報センター  
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

〈17.10作成〉



## Empowering Life

サノフィは、ヘルスジャーニー・パートナーとして、  
私たちが必要とする人々に寄り添い支えます。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー [www.sanofi.co.jp](http://www.sanofi.co.jp)



SANOFI



命のために、  
できることを  
すべてを。



大日本住友製薬

Innovation today, healthier tomorrows



Novartis Pharma K.K.

### 新しい発想で医療に貢献します

ノバルティスのミッションは、より充実した、すこやかな毎日のために、新しい発想で医療に貢献することです。イノベーションを推進することで、治療法が確立されていない疾患にも積極的に取り組み、新薬をより多くの患者さんにお届けします。

 NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>



### 深在性真菌症治療剤

創薬、処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)



# ブイフェンド®

錠50mg・200mg  
VFEND 200mg 静注用  
ドライシロップ280mg

(ポリコナゾール製剤)

薬価基準収載

- 効能・効果、用法・用量、警告、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売(輸入) —: ドライシロップのみ

**ファイザー株式会社**

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先: 製品情報センター

VFD72H001A

2019年7月作成

 Bristol Myers Squibb™  
ブリistol マイヤーズ スクイブ

## サイエンスを通じて、 患者さんの人生に 違いをもたらす™

深刻な病と闘う患者さんに革新的な医薬品を開発し、提供する。  
私たちは、この使命を胸に、世界中であくなき挑戦を続けます。  
ひとりでも多くの患者さんに、新たな希望をお届けするために。  
患者さんの人生に違いをもたらすイノベーションを起こす。  
それが、私たちの務めです。

---

© 2020 Bristol-Myers Squibb Company. All rights reserved.



## 北陸支部

支部長:山崎 宏人  
〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1  
国立大学法人 金沢大学附属病院 輸血部

事務局  
〒920-8641 石川県金沢市宝町 13-1  
国立大学法人 金沢大学附属病院 輸血部

第38回日本輸血・細胞治療学会北陸支部例会(WEB開催)を  
開催するにあたり、支部長 山崎宏人先生、事務局 佐藤英洋技師に、  
ご支援・ご協力を賜りました。ありがとうございました。